

「絶対(ずえったいっ)的基礎力」を身に付けよ!

1・2年生のみなさん、最後の定期考査どうでしたか!? 本来なら、考査前に限らず、普段(不断)の努力の積み重ねが大切なわけですが、なかなかそうもいかないみなさんも、ここぞとばかりがんばったことでしょう。でも、その場しのぎの学習では受験期に通用しないことはわかってますよね。3年生は自宅学習期間に入っていますが、入試対策のための講座や個別指導に登校しています。がんばってます。1・2年生のみなさんも、来年再来年と、全国区で堂々と(小論文等ではなく)教科試験で勝負できるよう、毎日の予習・授業・復習の黄金サイクルで実をつけてください。

例年、共通テストが終わると、3年生から「もっと早く意識すれば良かった」という反省が数多く聞かれます。二次逆転や逃げ切りを狙うためには、各教科の力が相当必要なわけですが、その前に共通テストレベルで点を取る力がなければ、合格の可能性は低くなります。さらに、小論文や総合問題といった二次試験に必要なのは、入学直後からの主体性や当事者意識の高さ。学校の教科にないこれらの対策を考えると、高校入試のように「試験間近になって集中すればなんとかなる」ものではないことを強く意識してください。

「会津高校に入れば大学にいける」程度の考えをいまだに持ち続けているみなさんはいない(?)と思います。ここであえて確認しておきます。全国の進学校どこに行っても、努力なくして第一志望に合格できる学校などないのです。普段(不断)の努力で絶対的基礎力を!

「絶対、〇〇に入ってやる!」的なモチベーションが、まずは大事かもね…。

【共通テスト全国平均点】(得点調整なし)

～ 国語易化 リーディング・政経はこれまでで最低 ～

国語 116.5 数学ⅠA 51.4 数学ⅡB 57.7 英語(R) 51.5 英語(L) 67.2
 現社 55.9 倫理 56.4 政経 44.4 倫政 61.3 世史B 60.3 日史B 56.3 地理B 65.7
 物基 28.7 化基 27.3 生基 31.6 地基 35.6 物理 63.0 化学 54.8 生物 54.8

【5教科総合得点全国平均(駿台ベネッセ予想値)以上の会高生度数推移】

2024年(文 35 理 44) 6クラス 2023年(文 29 理 31) 6クラス 2022年(文 25 理 25) 6クラス
 2021年(文 42 理 40) 6クラス 2020年(文 37 理 45) 7クラス 2019年(文 41 理 49) 7クラス

3年生 国公立大を主に出願先と合格・進路決定状況

【国公立大出願数 ～前期/中期・後期・独自/計～】

東北 8/1/9 秋田県立 1/4/5 宮城 1/3/4 山形 10/5/15 福島 18/21/39 会津 8 県医 6/1/7
 新潟 25/13/38 新潟県立 12 宇都宮 4/4/8 筑波 5/0/5 茨城 4/10/14 千葉 4/0/4 埼玉 4/4/8 など
 今年度国公立計 143/131/274 参考:私大昨年度一般受験計524

【学校推薦・総合選抜等合格確定数(2/13現在)】

東北 3 秋田 1 山形 1 福島 1 県医医 1 看 2 保 2 会津 1 茨城 1 宇都宮 1 埼玉 1 新潟 6 長岡造 1 都留文 1
 国公立大計 23 私立大計 39 公立短大 1 計63

では、先輩たちの出願について、傾向を探ってみよう。↗

→ 今年の共通テスト5教科総合平均点は、昨年比でわずかにアップ。全国的には文系理系共に、中位から上位層が少し厚くなった。この結果を受けて第1志望堅持・チャレンジ層が増加。地方の国公立大は軒並み低倍率。学部・学科によっては全入に近いところもある。私大は相変わらず首都圏の主要大学が人気を維持。地方からもぐりこむのは、ますます難しくなる傾向にある。

本校でも上位層が厚くなり、東北大・新潟大の出願が増えた。さらに、中位層で共通テストの結果が追い付かなかった人たちの奮起に最大の期待を寄せるとともに、例年、欠席者が急増する国公立大後期試験までの粘りにも活路を見出してほしい。また、下級生には、増加する推薦・総合選抜にも早期対応が不可欠だ。

⇒ 最終結果・解説は新年度の「学而の決意」参照。

知っておこう！「受験の現実」etc.

今、みなさんのなかには、関東圏などの大学を中心に、上位レベルの志望校を先生に伝えている人も多いと思われます。しかし、実際の受験となると、第一志望が思った以上に難しいことに気づかれます。先輩の出願状況を見れば、関東圏が少ないことから一目瞭然です。

— 関東圏の国公立大学は、人口の集中する首都圏の私立併願生も数多く出願します。そして、関東を取り巻く周辺地域の受験生も食い込もうとします。受験生の合否は、こういったライバルとの激戦りの中で、いかにして二次の個別試験を突破するかにかかっているのです。そのために、みんな必死で、今、この瞬間に打ち込んでいる。国公立大学の出願先を決定する場合、どこに人気が集中するか、レベルが上がるかは共通テストの出来にも左右されます。共通テスト高得点の場合、一般的には強気の出願傾向になりますが、難しくて点が伸びなかった場合は堅い出願になります。そして、受験生は、さまざまなデータの中で右往左往し、年によって、ある大学や学部学科が高倍率になったり低倍率になったり、大きく変動するのです。

— 今や私立大学も激戦り。国策によって東京都内の難関大が定員を減らしてさらに難化し、他の中堅大学も含めて地方の学生にとっては不利になっています。高いレベルを求めることに主体的な意義を持たないと、競争には勝てません。

知っておこう！「絶対(すえたい)的基礎力が大切」だけど・・・

— だからこそ、大切なのは、データに左右されない強い意志とそれを裏付ける確実な学力。しかし現実には、学年が上がり、模試の結果を受け取るたびに、強気の志望だけでは合格の可能性が低いことに気づく。重要なのは、大学(進路)を選択する上で「どこで何を学ぶことが将来のプラスになるのか」「将来のプラスになることとは何か」「自分の将来像とは何か」「今の自分にできる選択とは何か」の答えを準備しておくことだ。

自分を知る！考える！調べる！相談する！準備する！

「私は工学系だからできるだけお金のかからない国公立に行きたい。でも、遠くはイヤ。」

「将来は公務員。地元の大学を出たほうが絶対有利。ゆずれない。」

「薬剤師はいいらしい。薬学部を出て国家試験に合格することしか考えていない。」

「英語を生かした仕事に就きたい。外国語学部か国際学部でないダメ。」

「ウチはお金がないから・・・家族が〇〇しか認めてくれないから・・・」

— 短大や専門学校から4年制大学へ編入する先輩もいる。第一志望が成就できなくても、世の中で立派に生きている先輩のほうが多い。志望先の学校の特色は？ロケーションは？学費や生活費のシミュレーションは？奨学金やアルバイトの活用は？—

受験期に入ってから焦ることのないように、今から本当に、自分を知って、考えて、調べて、相談して、答えを準備することができるか、大人の思考で前に進んで欲しい。

押しつけがましい答えを出すのはやめておく。たった一度の人生はみんな自身のもの。一人一人が、それぞれ責任をもって主体的な生き方(選択)をししてくれることを願ってやまない。